

組合だより

2024/4/19

東京女子医大
労働組合

自らの要求実現と医療改善のために
貴方も労働組合へ加入しましょう！

みなさんの
加入を
まっています。



貴方の加入
が労働組合
の力を強め
て、賃金・労
働条件の改
善につなが
ります！

★去る17日に賃金回答 とりあえずは(?)「1号給の昇給」を実施!

2.5%ベースアップのための診療報酬改定分の処遇改善については検討中

本当に教職員の事を思うなら、ベースアップに回すのが理事会としての誠意だと考えます

4月17日付・賃金回答

ベースアップ	検討中
定期昇給	6,481円(2.23%)
小計	6,481円(2.23%)
諸手当	0円(0.00%)
合計	6,481円(2.23%)
○正職員数	3,693名
○平均賃金	297,569円
○平均年令	39.91才
○平均勤続年数	13.25年
[昨年度(2023年)賃金回答]	
ベースアップ	0円(0.00%)
定期昇給	6,656円(2.29%)
小計	6,656円(2.29%)
諸手当	0円(0.00%)
合計	6,656円(2.29%)

去る17日に大学理事会より今期の賃金回答が提示されました。その内容は、定期昇給を「1号給昇給する」との回答で、今年6月に実施される診療報酬改定中の「ベースアップ2.5%分の加算」については「その処遇改善については現在検討中であり、内容が決まり次第改めて回答する」との答弁でした。現在、医療機関の回答状況は、大学病院も含めて「定期昇給のみで診療報酬改定分は検討中」という回答がほとんどを占めており、女子医大の回答もこれに追従した回答と言えます。聞くところによると、医療機関の経営者の多くが「ベースアップではなく手当で賄う」という考えを持っているとのことですが、もし大学理事会がこうした方向を検討しているとするなら、教職員に対する不誠実な

態度だと言わざるを得ません。女子医大が医科大学の中でも低賃金水準にあることは言うまでもなく、さらに過去4年に亘って昇給額50%や昇給額ゼロを押し付けてきた経緯があり、他大学との賃金格差は一層広がってきています。下記の資料でも明らかのように、賃金や一時金を抑えた結果が、医師や看護師を中心に大幅な人員減を生み出し、採用にも事欠いていると言っても過言ではありません。従って、ベースアップが目的の診療報酬改定分は、文字通り「ベースアップに回す」とこそが、大学理事会の「教職員に対するせめてもの誠意」であり、今後の人員確保にも影響を与えるのではないのでしょうか。労働組合は団体交渉の最後に、「今回の警

視庁による立ち入り捜査は、女子医大の社会的信頼を大きく失墜させ、教職員の働く意欲さえも削ぐ重要な問題であり、理事の責任は大きい。早急に真相解明と責任の所在を明らかにし、教職員が納得できる説明を行うべきだ」と改めて求めました。

【2019年度～2024年度の賃金回答結果と職員数の推移(職員数はその年度の4月時点の数)】

	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
賃金回答	6,481円	6,656円	6,572円	3,159円	0円	3,306円
全職員数	3,693名	3,761名	4,079名	4,320名	4,357名	4,327名
教育職数	755名	789名	877名	938名	959名	970名
看護職数	1,765名	1,806名	1,975名	2,135名	2,081名	2,036名
他職種数	1,173名	1,166名	1,227名	1,247名	1,317名	1,331名

※賃金回答は定期昇給の金額 ※他職種とは事務職・医療技術職・技能職・一般職

♥あなたも労働組合に加入しましょう♥

黙っていては何も解決しません。組合に加入して理事会に要求・声をぶつきましょう!

- 第一支部(新宿本院)【内線】38811【直通】3357-3785 (メール) joshiidairouso@yahoo.co.jp
- 第二支部(足立医療)【内線】24512(昼休み時間可能) ※ホームページもあります

